

衛生試験所報告への投稿について

投 稿 規 定

1. 投稿資格：国立衛生試験所所員とする（共著者はこの限りでない）。
2. 内 容：原稿は報文、ノート、資料とする。そのほか誌上発表、単行本、行政報告、学会発表、業務報告、総説などを収載する。
 総 説：所員の調査または研究を中心とした総説で、図書委員会が執筆を依頼したもの。
 報 文：独創性に富み、新知見を含むまとまった研究業績。
 ノー ト：断片的な研究業績で、独創性や新知見が認められるもの。
 研究に関する資料：試験、製造または調査などで、記録しておく必要のあるもの。
 標準品に関する資料：標準品に関する試験、製造または調査などで、記録しておく必要のあるもの。
 ステートメント：学会等の発表および会議内容の記録。
 業務報告：所長、各部長（支所も含む）および各薬用植物栽培試験場の長が過去1年間（前年度）の業務成績、研究業績をまとめた報告。
 誌上発表：衛生試験所報告以外の専門誌に発表したもの。
 単行本：単独または共同で執筆し、公刊されたもの。
 行政報告：行政の依頼により実施し、報告書を提出したもの。
 学会発表：学会で講演したもの。
3. 用紙および枚数の制限：原則としてA4用紙（40字×25行）を用いる。原稿の長さは表、図、写真を含め刷り上がりページ数で下記の規定に従う（日本語および英語の場合、刷り上がり1ページはそれぞれA4用紙約2枚および約3枚に相当。表、図、写真は平均して各2枚がA4用紙1枚分として概算）。
 総 説：原稿を依頼するとき別に定める。
 報 文：8ページ以内。
 ノートおよび資料：5ページ以内。
 ステートメント：2ページ以内。
 業務報告：各部および各薬用植物栽培試験場について2ページ以内。
 誌上発表：一題目について要約部分が500字以内。
4. 原稿の提出：原稿は表紙（第1ページとする）、英文要旨、本文、文献、英文要旨の和文（参考）、最後に図表を入れた封筒の順に左上をひもなどでとじ、表紙右上に報文、ノート、資料のうち希望する分類を朱書きし、所長宛の報告書を表紙の上に添えて、定められた原稿〆切期日までに図書係宛に提出する。
5. 原稿の審査：図書委員会は提出された原稿の採否および分類を決定する。また、必要ならば字句や表現の訂正、図表の書き直しなどを求める。

執 筆 規 定

1. 文 体：現代かなづかい、新おくりがなの、口語文とし、簡潔で理解しやすい表現にする。原稿の語句の統一を計るため、原則的に「日本薬局方記載の手引」に従う。ただし用語例に関しては「衛生試験所報告記載の手引」による。止むを得ぬ学術用語以外は常用漢字を用いる。原稿はワードプロセッサ書きにする。なお、全文を英語で書いてもよい。その場合には、タイプライターあるいはワードプロセッサを用い、10ピッチダブルスペースで打つこと。
2. 学 術 用 語：学会の慣例に従う。文中では物質はその名称を記し、化学式は用いない。例えば塩酸と書き、HClとしない。また、化学名を英語で書く場合、文中では原則として小文字で始める。
3. 略記、略語、記号：次の例示のほかの慣例に従う。また、物質名あるいは分析法などを略記するときは、和文、英文とも最初は正式な名称とともに示す。例えば、イソニコチン酸 (INA)、示差熱分析法-ガスクロマトグラフィー (DTA-GC) と書き（以下 INA と略す）、などとしなない。

3.1 単位のべき指数表記には、次の記号を用いる。

テ	ラ (tera)	10 ¹²	T	ミ	リ (milli)	10 ⁻³	m
ギ	ガ (giga)	10 ⁹	G	マイクロ	(micro)	10 ⁻⁶	μ
メ	ガ (mega)	10 ⁶	M	ナ	ノ (nano)	10 ⁻⁹	n
キ	ロ (kilo)	10 ³	k	ピ	コ (pico)	10 ⁻¹²	p
デ	シ (deci)	10 ⁻¹	d	フェムト	(femto)	10 ⁻¹⁵	f
セ	ンチ (centi)	10 ⁻²	c	ア	ト (atto)	10 ⁻¹⁸	a

3.1 物理量，化学量，物性などの単位および定数の記号または略号は，次に掲げるものを用いる。

メートル	m	度(セルシウム)	°C	parts per billion	ppb
マイクロメートル	μm	ケルビン度	K	モル濃度	M
ナノメートル	nm	ベクレル	Bq	規定濃度	N
(mμ を用いない)		カウント毎分	cpm	施光度	α
オングストローム	Å	(cps を用いない)		吸光度	A
平方メートル	m ²	グレイ	Gy	水素イオン指数	pH
アール	a	シーベルト	Sv	pK 値	pK
リットル	l	クーロン/キログラム	C/kg	ミハエリス定数	K _m
(L を用いない)		サイクル	cycle	R _f 値	R _f
ミリリットル	ml	回毎分	rpm	保持時間	tr
(cc を用いない)		ヘルツ	Hz	50%致死量	LD ₅₀
マイクロリットル	μl	キャンドラ	cd	50%有効量	ED ₅₀
(λ を用いない)		ルクス	lx	経口投与	p. o.
立法メートル	m ³	ダイン	dyn	静脈投与	i. v.
グラム	g	気圧	atm	腹腔投与	i. p.
マイクログラム	μg	トル	Torr	皮下投与	s. c.
(γ を用いない)		水銀柱ミリメートル	mmHg	筋肉投与	i. m.
時	hr	毎センチメートル	cm ⁻¹	標準偏差	S. D.
分	min	(カイザー)		標準誤差	S. E.
秒	sec	融点	mp	紫外吸収	UV
(時間は複数でも s をつけない)		分解点	mp(dec.)	赤外吸収	IR
アンペア	A	沸点	bp	核磁気共鳴	NMR
ボルト	V	凝固点	fp	電子スピン共鳴	ESR
オーム	Ω	比重	d	施光分散	ORD
ガウス	G	屈折率	n	円偏光二色性	CD
エルステッド	Oe	重量パーセント	%	マスペクトル	MS
ジュール	J	容量/重量パーセント	v/w%		
カロリー	cal	parts per million	ppm		

4. 句読点：，．を用い，、。としない。

5. 数字：アラビア数字を用いる。千の単位にコンマをつけない。ただし，成語となっている数字は漢字とする。

6. 字体の指定：文字の下に赤で次のように記す。

ゴシック体~~~~~例：見出しなど 試薬

イタリック体———例：学名など Papaver somniferum L.

スモールキャピタル=====例：著者名など L-ascorbic acid

7. 報文，ノート，資料，ステートメントの記載要領：

7.1 記載順序：7.2～7.5の順に書く。

7.2 題名，著者名：次の例に従い，表紙（用紙1枚全部）をこれに当てる。なお，所外の共著者の所属は著者名の右肩に*（複数のときは*1,*2...）のように記して脚注とする。

例：医薬品の確認試験法に関する研究（第2報）

鎮痛剤のクロマトグラフィー

用賀 衛・世田一郎・東京子

Studies on the Identification of Drugs II

Chromatographic Methods for the Analgesics

Mamoru Yoga, Ichiro Seta and Kyoko Azuma

7.3 英文要旨：論文の内容を簡潔にまとめ，ワードプロセッサあるいはタイプライターで打つ。参考のため別紙に書いた和文を文献の次に添える。

7.4 キーワード：

1) キーワードは英語（必要に応じ，ラテン名）とし，選定数は5個以内とする。

2) 英文要旨のあと2行あけて“Keywords”の項目をつける。固有名詞，略語を除き，小文字で記すこと。各キーワードはカンマで区切り，続けて記載すること。

3) 単語，句，略語のいずれを用いてもよい。特殊な場合（例：tablets）を除き，単数形とする。また，冠詞はつけない。

7.5 本文：新しいページから書き始める。本文のスタイルは特に規定しないが、内容の重複を避ける。凸版にする図、または原稿用紙に書き切れない表がある場合、それらの挿入位置に若干の余白を設け、図表の番号を明記する。

7.6 文献：本文の引用箇所の右肩に³⁾, ^{2,5)}, ¹⁻⁴⁾のように記し、終わりに文献として引用順に書く。

雑誌名は Chemical Abstracts および日本化学総覧の略記法による。外国雑誌名はイタリック体で表し、単行本は書名を省略せず、編者名や出版地も記載する。

7.7 図表：図、写真、表は本文とは別にし、それらの挿入位置を本文の左欄に朱書きする。図、表は原則として英語で書く。図は白紙あるいは青色方眼用紙に2倍程度の大きさに黒で鮮明に描く。写真は印画紙に鮮明にプリントしたものを使用すること。表は1ページにおさまるように作る。

図の番号は Fig. 1., Fig. 2., …とし、表題、説明は別のA4用紙にまとめて書く。表中の項目に関する注は右肩に^{a), b), …}のように記して表す。なお、表題、説明も原則として英語で書き、表題は大文字ではじめ、最後に.をつけない。

例：Fig. 1. Influence of enzyme concentration on reductive suger production

Fig. 2. Reaction of ephedrine and pseudoephedrine with acetone as a function of time

図および表は、その裏に番号、題名、著者、本文中の挿入ページを記す。また、電子顕微鏡写真には希望する縮尺を記入する。提出するときは一括して封筒に入れ、そのおもてに論文題名、著者名、ならびに図、表のそれぞれの枚数を記し、原稿の最後にとじる。

8. 誌上発表等の記載要領：誌上発表、単行本、行政報告、学会発表については、別に定める記載要領および例示に従う。

校 正

初校は著者が行う。人名、化学名、数値、文献などは特に綿密に校正する。内容の追加、行数の増加は認めない。

国立衛生試験所図書委員会

平成8年度図書委員

齋藤行生	*宮田直樹	神沼二真	*木暮瑠理
押澤正	小野景義	*林讓	関田寛
穂山浩	*坂元史歩	末吉祥子	手島玲子
高橋惇	宮原美知子	川島邦夫	津田充宥
高田幸一	*田辺秀之	*鎌田栄一	*四方田千佳子
下村講一郎	*上沼陽子		

(*は編集委員)

衛生試験所報告 第114号

平成8年10月25日 印刷

平成8年10月30日 発行

発行所 国立衛生試験所化学物質情報部
東京都世田谷区上用賀1丁目18番1号

印刷所 サンコー印刷株式会社
東京都文京区小石川2-25-12-903